

温 泉 分 析 書

衛研依第4-166 号温 1274 号

1 申請者住所氏名	札幌市南区定山溪温泉東3丁目318番地			酒 井 惟 雄			
2 源泉名および湧出地	定山溪温泉(源泉名 と き 和 旅館) 札幌市南区定山溪温泉東4丁目319番地先 河川敷地内						
3 湧出地における調査および試験成績							
(イ) 調査および試験者 : 北海道立衛生研究所 技術吏員 北 山 正 治							
(ロ) 調査および試験年月日 : 平成 元 年 9 月 8 日							
(ハ) 泉 温 : 80.5℃(気温: 24℃) (ニ) 湧出量: 240 ℓ/min(自然湧出)							
(ホ) 知 覚 的 試 験 : 無色澄明、微弱カン味、微弱硫化水素臭							
(ヘ) pH 値 : 6.6 (ト) ラドン(Rn) :							
4 試験室における試験成績							
(イ) 試 験 者 : 北海道立衛生研究所 技術吏員 北 山 正 治							
(ロ) 分析終了の年月日 : 平成 元 年 9 月 29 日							
(ハ) 知 覚 的 試 験 : 無色澄明、微弱カン味、ほとんど無臭(採水後3時間)							
(ニ) 密 度 : 1.0007 (20/4℃)							
(ホ) pH 値 : 6.64							
(ヘ) 蒸 発 残 留 物 3.327 g/kg (130℃)							
5 試料1kg中の成分 : 分量および組成							
(イ) 陽イオン	ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)	(ロ) 陰イオン	ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)
水素イオン	H ⁺			フッ素イオン	F ⁻	1.2	0.06
ナトリウムイオン	Na ⁺	947.3	41.20	塩素イオン	Cl ⁻	1615.	45.55
カリウムイオン	K ⁺	171.2	4.38	水酸イオン	OH ⁻		
アンモニウムイオン	NH ₄ ⁺	1.3	0.07	硫化水素イオン	HS ⁻	0.0	0.00
マグネシウムイオン	Mg ²⁺	8.2	0.67	チオ硫酸イオン	S ₂ O ₃ ²⁻	—	—
カルシウムイオン	Ca ²⁺	123.6	6.17	リン酸イオン	H ₂ PO ₄ ⁻	0.1	0.00
アルミニウムイオン	Al ³⁺	—	—	硫酸イオン	SO ₄ ²⁻	90.5	1.88
マンガンイオン	Mn ²⁺	0.7	0.03	炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻	308.5	5.06
第一鉄イオン	Fe ²⁺	0.5	0.02	炭酸イオン	CO ₃ ²⁻	0.0	0.00
第二鉄イオン	Fe ³⁺						
計	1253.	52.54	100.	計	2015.	52.55	100.
(イ) 遊 離 成 分							
非 解 離 成 分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)	非 解 離 成 分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)		
メ タ 珪 酸	H ₂ SiO ₃	152.5	メ タ 亜 ヒ 酸	HAsO ₂	5.4	0.05	
メ タ 硼 酸	HBO ₂	148.4					
計			計	306.3		5.39	
溶 存 物 質 (ガス性のものを除く) 3.574 g/kg							
溶 存 ガ ス 成 分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)					
遊 離 二 酸 化 炭 素	CO ₂	87.1					
遊 離 硫 化 水 素	H ₂ S	0.6					
計	87.7	2.00					
成 分 総 計 3.662 g/kg							
(ニ) その他微量成分	銅イオン: 0.024mg/kg						
	鉛イオン: 検出せず						
	総水銀: 検出せず						
6 泉 質 : ナトリウム塩化物泉(中性低張性高温泉)							
7 禁 忌 症, 適 応 症 : 「温泉分析書別表」中5に記載する。							
平成 元 年 9 月 30 日							
上記原本により謄写す				北海道札幌市北区北19条西12丁目			
平成 9 年 〇 月 〇 日				北海道立衛生研究所長			
北海道立衛生研究所長 木村浩男							

温泉分析書別表

1 源泉名：定山溪温泉（とき和旅館）		
2 源泉所在地：札幌市南区定山溪温泉東4丁目319番地先河川敷地内		
3 温泉分析申請者：札幌市南区定山溪温泉東3丁目318番地 酒井 惟 雄		
4 泉 質：ナトリウム－塩化物泉（中性低張性高温泉） （旧泉質名：弱食塩泉）		
5 療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりである。		
浴 用	禁 忌 症	急性疾患（特に熱のある場合）、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患 活動性の結核、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中（特に初期と末期）。
	適 応 症	神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、痔疾 慢性消化器病、慢性皮膚病、病後回復期、疲労回復、健康増進、虚弱児童、慢性婦人病 冷え症、きりきず、やけど。
飲 用	禁 忌 症	腎臓病、高血圧症、その他一般にむくみのあるもの。
	適 応 症	慢性消化器病、慢性便秘。
浴用、飲用の 一般的注意事項 1 入浴の方法及び注意 (1) 熱い温泉に急に入ると、めまい等を起こすことがあるので十分注意をすること。 (2) 入浴時間は入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分位とし、なれるにしたがって延長してもよい。 (3) 入浴中は運動浴の場合は別として、一般には安静を守ること。 (4) 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守ること。 (5) 高度の動脈硬化症、高血圧症及び心臓病の患者は原則として、高温浴（42℃以上）を禁忌とする。 (6) 入浴後は身体に付着した温泉成分を水で洗い流さないのがよい。ただし、「湯ただれ」を起こし易い人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分をふき取るのがよい。 (7) 食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。 (8) 飲酒しての入浴は特に注意すること。 (9) その他 2 飲用の方法及び注意 (1) 飲用の一回量は一般に100mlないし200ml程度とし、その1日量はおおむね200mlないし1,000mlまでとする。 (2) 一般には食前30分ないし1時間がよい。 (3) 夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けること。 (4) その他 大人一人一日の飲用量は80ml以内（ヒ素含有）とし、食後に飲用すること。 ◎ 温泉療養に際しては、医師の指導を受けることが望ましい		
平成 元 年 9 月 30 日		
決定者 北海道保健環境部		

